



教授の呟き

第56回

次世代に残したい「ゆとり」と「配慮」

東京海洋大学教授 苦瀬博仁

●●● 歴史的建造物に思うゆとり

夏休みには旅行に出かけ、古い寺院や建物を巡りながら、素晴らしさに感嘆の声をあげる人も多いことだろう。

実は、筆者の勤めている大学の越中島キャンパスの1号館も、関東大震災（大正12年、1923年）直後に建てられた古い建物である。いまでも教室や研究室に使われており、ときおりテレビや映画のロケにも利用されている。

建物の外観にはレリーフが施され、高い天井近くの壁に、いくつかの木彫りの船の彫刻がはめ込まれている部屋もある。往時のゆとりある設計と、数は少ないが気遣いにあふれた装飾が、味わいのある雰囲気と心地良さを醸し出している。

一方で筆者の研究室がある2号館は、12年ほど前（1995年）に建てられたものである。合理的かつ機能的な設計と言えは聞こえは良いが、レリーフや彫刻などはもちろん無い。安普請とまでは言わないが、機能だけを追求すれば、ムダはないものの、味も素っ気もなくなってしまう。

●●● 先人たちのやさしい配慮

ゆとりや配慮を感じるのは、なんにも古い建築物だけの専売特許ではない。

大阪の地下鉄梅田駅では、駅舎を広げようとしたら、先回りして造っ

てあったトンネルを発見し、これを利用して安価に工事を完成することができたそうである。名古屋の100m道路は計画当時に無謀とも言われたようだが、いまでは非難する人はいない。

東京近郊の河川をまたぐ高速道路には、橋脚の間が等間隔ではなく、一部分だけ広く造られている橋梁がある。いつの日か河川敷にインターチェンジを設けるかも知れないと想定し、接続道路を通しやすいようにとの配慮だと聞いたことがある。片側1車線で開通する道路であっても、トンネルや橋梁などの複雑な工事部分だけは、手戻りがないように将来に備えてあらかじめ広めに造っておくことは多い。

そこには、多少の無理や出費をしてでも、次世代にゆとりある資産を引き継ぎ、負担を減らしてあげようとする配慮がうかがえる。これは、自らの時代だけで将来を決めきらない奥ゆかしさや、次世代に決定を委ねる謙虚さでもある。

●●● 将来を決めきることは可能か？

一般論で言えば、現在の知識と能力で、将来のすべてを見通すことは難しい。

将来を計画するためには予測が必ず必要であるが、予測の前提となる仮定が社会情勢や生活行動によって変わり、予測結果が実際と異なることはしばしば起きる。また、時代を経て新たな知見が追加されたり、技



術が進歩することもある。⁽¹⁾
 だからこそ過去から学ぶべきことは、「今とは異なる将来の社会変化や、今は不確実でも後世には確実となるだろう技術進歩の存在」である。このため、予想しがたい変化と進歩に備えて、「ゆとりある計画を後世に引き継ぐこと」が、先人たちの知恵でもあった。

●●● 後世に引き継ぎたい「ゆとり」 ●●●

家族が増えるたびに建て増しするようなツギハギの家は、使いにくいし費用もかさむ。むしろ、あらかじめゆとりを持って造られた家の方が、家族が増えたり生活スタイルが変わっても、使い勝手は良いだろう。だからこそ、長く使用される建造物ほど、良い材料を使い少しばかりのぜいたくを含めながら、将来へのゆとりを確保しておきたい。

しかし最近では、何かというと「ム

ダの排除」、「費用対効果の最大化」、「限界設計」などの用語を安易に使いがちだ。そこには、「ゆとりも配慮も無いギリギリの設計や最小費用の選択こそが、最大の利益を生む」という前提がありそうだ。
 あけすけに言うならば、「次世代へのゆとりや配慮を認める必要はない。現世代の限られた知識や能力だけで、遠い将来までを枠にはめても構わない」という身勝手な理屈があるように思う。後世の人たちにすれば、随

分と失礼な話ということになる。
 自らを戒めるためにも、夏休みこそ故（ふる）きをたずね、賢明なる先人たちの知恵をたどってみたい。これによって、もしも「次世代に『ゆとりある資産』を引き継ぐ『心のゆとり』」を養うことができれば、久しぶりの価値ある夏休みになることに間違いはない。☑

(1) 苦瀬博仁：「解消したい『企画と計画の乖離（かいり）』」、教授の呟き第47回、流通設計21、第37巻11号、pp50-51、2006年

Profile

東京海洋大学 海洋工学部
流通情報工学科 教授

苦瀬博仁

(くせ ひろひと) 1951年東京生まれ。73年早稲田大学理工学部土木工学科卒業。81年、同大学大学院博士課程修了後、日本国土開発に入社。86年東京商船大学助教授、94年より同大学教授。2003年大学統合により、東京海洋大学教授。副学部長、評議員を経て、06年4月より流通情報工学科長。94年から95年の1年間、フィリピン大学客員教授。04年6月より東京大学大学院医学系研究科客員教授（併任）。主な著書に「付加価値創造のロジスティクス」(税務経理協会)、「都市交通—都市交通計画・都市物流計画」(丸善)、「マニラ・エンジョイ・トラブル」(論創社)、「明日の都市交通政策」(成文堂)、「都市の物流マネジメント」(勁草書房) <http://www2.kaiyodai.ac.jp/kuse/>

